

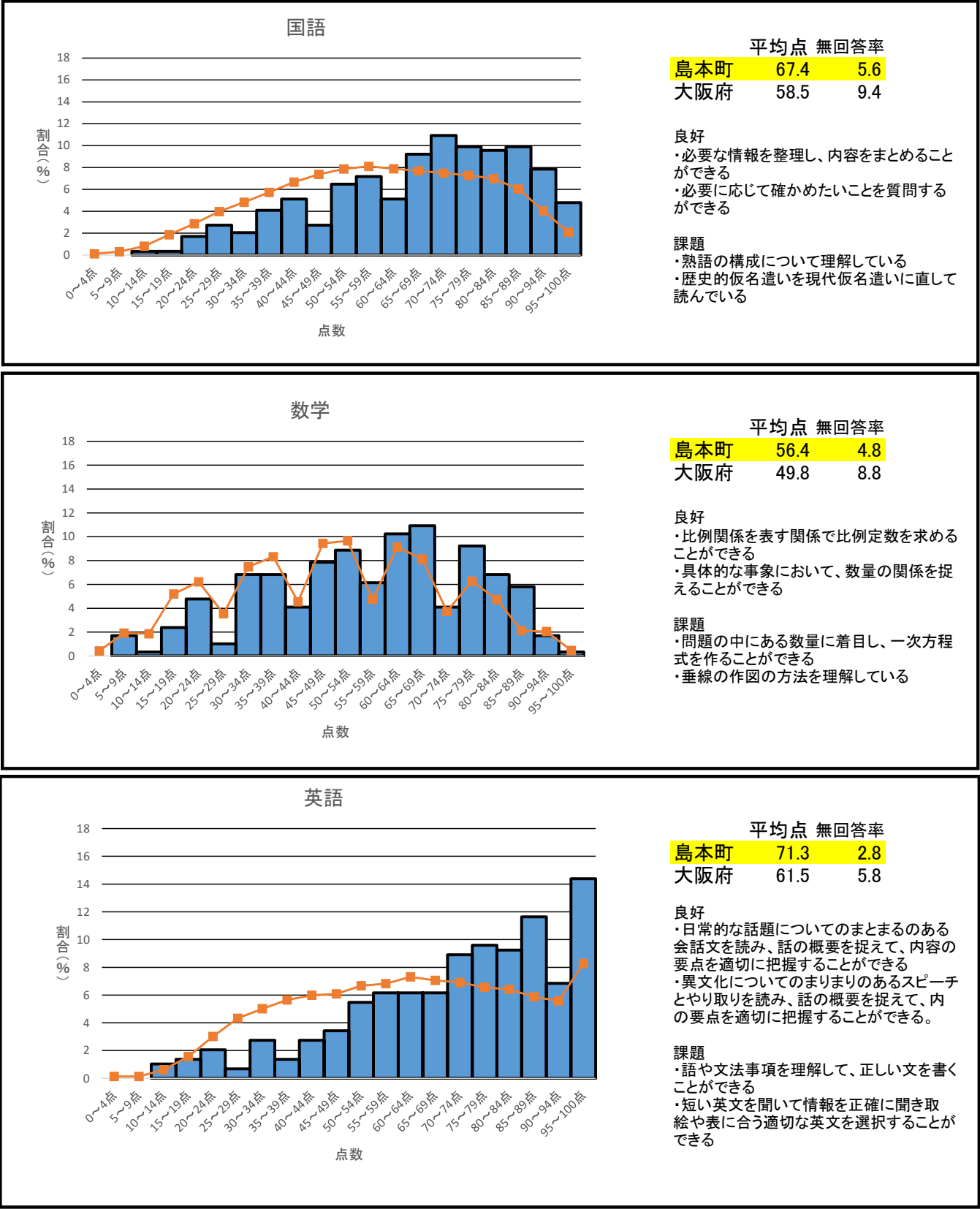
令和6年度大阪府中学生チャレンジテスト 中学1年生 結果概要

教育推進課

実施日時: 令和7年1月9日(木)
対象・内容: 第1学年(国語・数学・英語、各教科アンケート)

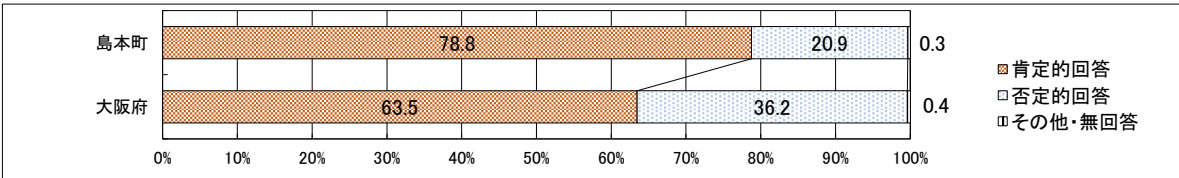
実施校数: 2校(府内471校)
実施生徒数: 293人(府内56, 930人)

1. 度数分布及び教科別結果概要(平均点)

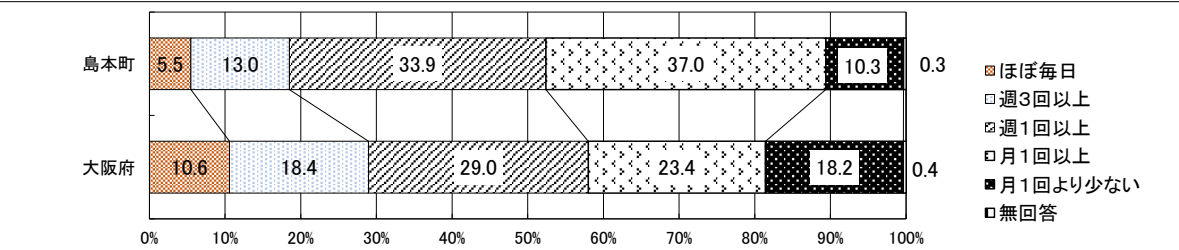


2. アンケート(抜粋)

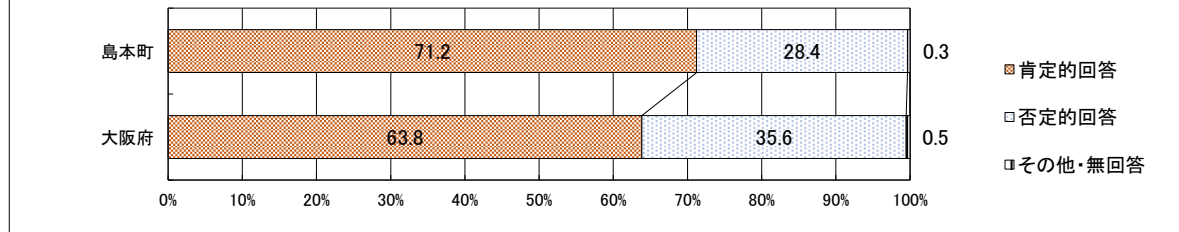
(3)授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。



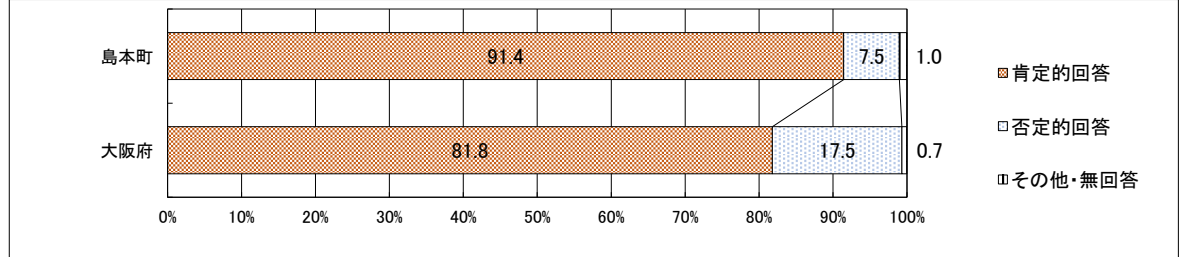
(4)授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。



(5)家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。



(6)あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。



<アンケート結果について>

○(3)については、大阪府平均と比較して肯定的回答の割合が15.3ポイント高くなっている。学力向上担当者会等で思考ツール等の啓発に努めてきた結果であると分析できる。ツールの使用はあくまで手段であることを忘れず、生徒の思考を深化させる方策について、研究を続けていく必要がある。また、(6)については、大阪府平均と比較して肯定的回答の割合が9.6ポイント高くなっている。昨年度の1年生と比較しても、肯定的回答割合が0.3ポイント高くなっており、学習の基盤たる「安心できる教室環境」が保障されていることの証明と分析できる。今後もみづまるキッズ保育・教育ビジョンの目指す「違いを理解し自他を尊重する子ども」を意識し、教育活動を展開していく必要がある。

●一方で、(4)については大阪府平均と比較して、ICT機器の習慣的な活用について、使う頻度が「ほぼ毎日」及び「週3回以上」と回答した生徒の割合が10.5ポイント低くなっており、昨年度の1年生と比較しても4.7ポイント低くなっている。こちらも(3)と同じく、使用が目的となつてはいけないが、令和7年度に予定されている一人一台端末の更新に向け、生徒の学力向上等に正対した活用について、研究を深めていく必要がある。